

「たし算とひき算の筆算」

1 提案の主張点

教材の分析

教科書を分解し、本質をつかむ。

教科書に書き込み、自作ノートを作る。教科書の工夫や分かりづらいところなど見えないものが見えてくる。

主張 事前調査を生かした個への関わり

「百マス計算」 できるかできないか分かる。

計算にかかる時間が分かる。

個別の課題の与え方を考えていきたい。

主張 習熟度別学習の学習スタイルの工夫

第2学年までの加減計算の習熟をもとに習熟度別のクラスを編成。2クラスを3つに分ける。

【発展的なコース】論理的な考え方。話し合って練り上げていくことをねらいとする。

時間が足りなくなるくらい意見が続く。発展的な問題にも取り組ませた。

【基本的なコース】教師といっしょにアルゴリズムを創りあげていくことをねらいとする。

【補充のコース】繰り返し学習や具体的な操作によって内容を押さえていくことをねらいとする。

分かった喜びを味わわせるために、つまずきの段階をおって、操作活動に取り組ませ、全員、間違いが直るまでやらせた。

主張 楽しくわかる学習活動の展開

(ブルーコース【補充のコース】の取り組み)

(1) 学習の仕方を指導する。

見やすくわかりやすいノートづくり

- ・ 日付、ページ数を書く。
- ・ マスに合わせて使う。
- ・ 間違いは残す。

(2) 何のためにするのかはっきりさせて、算数的活動に取り組ませる。

見通しを出してやり、問題解決に取り組ませる。

(3) 個別課題に取り組む時間をつくる。

既習のつまずきを分析し、その子にあった課題に取り組む時間を授業の中で確保した。

2 提案に対する意見

Q. 考察からは、習熟度別と学習スタイルの効果が混ざっていて、問題解決型に合っているかどうか、分からない。

A. 考察のずれは、言われるとおりだ。時期がなかった。

Q. ノートの取り方は具体的にどのように指導したのか。

A. 前の時間の教師が作ったノートを書き写させた。

3 御指導

3つのコースどれも、子供と算数を創っていると言えるのではないか。

ブルーコース【補充のコース】の子供も学び合っている。先生たちの授業を見る目を変えないと、教師が引っ張って子供が入ろうとするこれも学び合い。

習熟度別によりそれぞれを伸ばしていくためには、このグループは、算数を創れる人、このグループはプリントや個別指導で楽というのではだめだ。

ノート、板書について、教師間の共通理解が大事、そろえるところはそろえないといけない。

教材研究、板書、発問の言葉を聞き、研究を大事にしていることがよく分かった。

少人数指導を学校全体、学年団、教科で考えていってほしい。

評価はコースに分けてもする必要がある。評価と指導の一体化、子供に生かしていくようにしてほしい。